

会議録（要点筆記）

会 議 名	第2回 第7期米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和3年3月29日（月）午前10時00分～12時00分
開 催 場 所	米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：白石委員、山本委員、田中委員、宇田川委員、中川委員、北川委員、山口委員、北居委員、谷口委員、松井委員 事務局：政策推進部 西村次長、政策推進課 松村課長補佐、川崎主幹 傍 聴：なし
議 題	【テーマ1】 オンラインでの情報共有の在り方について 【テーマ2】 オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） 【テーマ3】 職員と地域との関わり方について
結 論	・本日の意見を取りまとめ、次回、市への提言としてまとめていく。 【テーマ1】 オンラインのメリットを現在（コロナ禍）のライフスタイル、日常生活を踏まえてわかりやすく示す。 【テーマ2・3】 自治会と市職員の距離を近づけるための双方向の情報共有、相互に関わり合える仕組みの必要性を示す。
会長	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）意見交換 【テーマ1】 オンラインでの情報共有の在り方について [資料1] 【テーマ2】 オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） [資料2] 【テーマ3】 職員と地域との関わり方について [資料3]  前は、この新しい第7期委員会の1回目ということでありましたので、第6期から引き続いて議論してきた3つのテーマ、「オンラインでの情報交流」「オフラインでの交流・関わり方について」「職員と地域との関わり方について」ということで、みなさまからご意見をいただきました。 今日は、そこから議論を深めるというような形で、テーマごとに議論をしていきたいと思えます。 ●【テーマ1】 オンラインでの情報共有の在り方について ＜事務局から資料に基づき説明＞ ありがとうございました。 本日この1点目のテーマに関わって委員からの資料提供がございますので、事例紹介を少ししていただければと思えます。

委員	<p>はい。「つくる未来展」という資料でご紹介します。</p> <p>オンラインか、オフラインかでいうと、オフライン側になるかもしれませんが、全体として考えていただくためにご紹介させていただきます。</p> <p>この「つくる未来展」というのは、今年の6月に展示会をしようと今、相談しているところです。</p> <p>資料の中で、いろいろと本を並べましたが、今まで「こんなまちになったらいいな」ということは、個人で動き始めるよりは、市役所とか、誰かがやってくれないかということをお願いするようなことが多かったように思うんですけど、資料にある本の表紙を見るだけでもわかるように、「これからのまちは自分たちで作るんだ」というような、そういう考え方がかなり主流になってるかなと思います。そのためには、まちの人たちが「こんなことを今やっています」とか「やりたいです」ということを見られるようにしていく。それをお互いに行うことができる場が必要ではないでしょうか。</p> <p>オンライン上では、市役所のホームページに市民活動団体の紹介ということで、今110団体が登録されているデータベースがあるんですけど、これは2017年のデータベースということで、現状どうなっているか、これに反映されてるかはわからない状況です。そういうことで、現状改めてちゃんと知ることとか、一緒に活動をする仲間を探すことができる仕組みが必要ではないかと思います。</p> <p>その上で、全体の取り組みを考えて、ほかの人の思いも応援して、実際にこのまちをつくるための行動が起こる、そういう一連の流れを作っていく必要があるかと思います。</p> <p>今、米原市で市民が思いを実現するための制度として、協働事業提案制度と地域創造支援事業という2つの大きなものがあると思います。</p> <p>ただ現状、協働事業もなんとなく「市民団体と行政と協働してやろう」ということでしているんですが、なかなかミスマッチが起こっていて、お互い一緒にやることによって、不具合が起こっているような状況があったり。あと、地域創造支援事業も、同じ団体が何年も補助金を申請されて、補助金前提で活動が行われて、なかなか発展性が乏しいという問題が起こっている。そういうことがあって、私は今年度末まで市民活動団体のコーディネーター業務を委託されて活動していたということで、「つくる未来展」というものを考えました。</p> <p>そのコーディネーターをする中で、市役所から課題として挙げられてるのが地域創造支援事業と協働事業の2つの棲み分け、違いが明確になってないということで、一つは審査をする組織とか仕組みのところで、一本化できないかと提案を受けました。いろいろ考えていくと、それを考えるより先に、まず冒頭申し上げたように「自分たち自身がこれをやりますよ、これをやりたいんです。」ということをやちゃんと提案できる場が必要だろうと。それで、やはり市民団体だけでなく、行政ももちろん、まちをよくするために仕事をされているので、そういう意味では行政からも、一緒に重点課題とかそういうものを、市民に向かって見せる場が</p>
----	---

あっても良いかなという思いに至りました。

私、今までに、まちづくりネットという団体をやっけていまして、2015年度から写真もいくつか載せましたが、イベントはいろいろですけれども、こうしてワークショップを開いたり、みんなが集って話をしたりする場づくりをしてきたので、その延長線上で「つくる未来展」を考えました。繰り返しになりますが、「つくる未来展」というのは、市民と行政が対等な立場でやっていること、これからやりたいことを見据えて、自分たちがやりたいことをしていくという仕掛けにする、そんな場です。

いろいろ考えると、行政の仕事というのは、失敗することに対してすごく抵抗があると思います。しかし、今コロナでこういう状況になったり、自然災害とか甚大な被害を受けたり、気候変動とかいろんなことが起こっている状況があるので、行政が失敗しないというのはまず有り得ないだろうと思います。

逆に、よい失敗を早くして、どんどん良い方向に向かわせていくということがみんなの幸せにつながるようになったことで、市民と行政が成功も失敗も一緒に自分たちごととして受けとめられるような場づくりができればいいなと思っています。

「つくる未来展」の具体的な内容はまだ話をしている段階ですけれども、既にやりたいことが明確な人は、大きなパネルでしっかり書ける人もいますし、まだアイデアレベルでとか、気持ちのレベルで、という人も含めていろんな人が参加できる展示会にしたい。選ばれた人だけじゃなくて、そこにふらっと来た人が、「自分はこんなことがやりたい」ということが前提ですが、「何とかしてください。」じゃなくて、「こんなことしたいです。」と開示するような、そういう展示会をしたいと思います。

あとは、マルシェとか飲食スペースは、コロナの関係でどこまでできるかわかりませんが、今まで、まちに関心がない人も参加できる仕組みにしていきたいと思っています。

私なりに、いろんな情報、メディア、コミュニケーションの仕方を考えると、ちょっと2軸で分けてみて、場所と時間で分けて見ると、対面のほうが同時に随所であるわけですから、委員会ではオフラインといわれている場になります。同所で随時見ていただくというコミュニケーションの位置づけなのかなと思います。

あと協働事業提案制度とか、地域創造支援事業にも関連しますが、それだけが目的ではないと思います。例えば協働事業だと、このプレゼンとか、展示会に出ていただくことで、自分たちがやりたいことを早期に周知できることで、常日頃からコンタクトできるようなきっかけができるんじゃないかと思っています。

こちらの例では、未来展だけをやるのではなく、それをきっかけにして、市民の参加窓口、行政担当窓口というものを作りまして、随時お互いに情報交換とか相談ができるような体制を作っていきたいと思っています。地域創造支援事業に

<p>会長</p>	<p>についても同じようにこのプレゼンを「つくる未来展」で展示をしていただくことによって、いろんなアイデアが共有できるのではないかと。</p> <p>次のページで写真を載せましたが、地域創造支援事業で前にやられたかと思いますが、チューリップを植えてみんなで見ようということで、結構有名なイベントになっていますが、写真を見ていただくように、奥のほうはオーナー制度で植えてあって、オーナーさんから一部支援というか、寄付のような形でいただいて運営する、そういうアイデアがみんなで共有できるのではないかかと思っています。</p> <p>そういうことで、ゆるく協働事業と地域創造支援事業を一体化しながらということが、将来的になればいいかなと思います。</p> <p>最後に、繰り返しになりますが、みんな一人ひとりがやりたいことをつなげる、そうやって未来を創っていこうということで、これはオフラインになりますが、アーカイブに載せればオンラインのコミュニケーションにもつながるということで、話題提供とさせていただきます。</p> <p>事務局からの資料と委員から提案いただきました内容につきまして、質問や意見を 30 分ほど交わしたいと思います。</p> <p>委員のお話の中で私も感じたのは、せっかくオンライン並びにオフラインの媒体を多様に使っていくのですから、米原市のまちづくりの中で、事業の改革や促進ができるなど、新しい要素が生まれる部分についても同時に企画することに価値があるのではないかとということです。広報の手段についても限定せずに提案をいただいておりますので、そのあたりの領域まで踏み込んで、皆さんからこういう工夫、手段があったらというような発言をいただいても良いかと思っています。</p> <p>コロナ禍で私自身もいろいろ体験して感じるのは、いろんな形で、オンラインといいますが、人が集まらない形の情報発信や受け取り方、或いは余暇の過ごし方が随分と皆さんの日常の中に入ってきた気がします。おそらく第 6 期でこの議題を議論した時には、「どうしたらアクセスしてくれるかな」とか、例えば「ユーチューブなんて知っているの?」というレベルでしたので、相当状況は変わってきた気がします。実際に精通しているかはわかりませんが、「ユーチューブやいろいろなネット配信があるよ」とか、或いは「会議・シンポジウム等をオンラインでやればいろいろな参加の仕方が広がりますよ」と言われると、何となく以前より身近に感じられるというのもひとつです。ハードルがかなり下がってきている感じが感じられます。</p> <p>オンライン方式でシンポジウム等をやってみてわかったのが、会場で集まっていたときよりも参加者が増えるイベントが多いということでした。今まで対面でやったときに比べると訴求力が落ちるのではないかと危惧していましたが、例えば、より広域から参加してもらいやすいとか、移動の時間や費用が節約できるとかが理由になるのでしょうか、以前よりも参加者数が増えているイベントも多い</p>
-----------	---

委員	<p>ですね。</p> <p>このコロナ禍の経験の中で、対面がベストで、オンラインが次善の策ではなく、オンラインにはオンラインの大きなメリットがあるということを、私も体験してきました。</p> <p>皆さまもこの1年間体験された中で、この議題にかかる取り組みについても一歩前に進められるのではないかという感想あるいは事例がありましたら、ぜひ紹介くだされば、そこも生かしていきたいと思います。</p> <p>私は去年の2月ぐらいにこちらへ帰ってきて、妻の母親がもともととしていた美容院が通りに面しているんですが、そこを事務所にして仕事をしていたら、みんなが「何してんだろう」と見に来てくれて、来てくれた人とちょっとしゃべって、「こういうことしてるよ」とか言う結構、地域の人たちが知ってくれて。</p> <p>最近どういことが起こっているかという、80歳を過ぎたおばあちゃんがスマホを使って、「ちょっとようわからん。」って言うので、一人来られると、「あそこへ行ったら、見てくれるで」みたいな話になって。結構、スマホを楽しんでおられるなというのが一つ印象なんですよね。だからそんなにアレルギーばかりではないなという気がしています。</p> <p>もう一つは、何か問題があったときに、ケータイショップへ行くことが多いんですけど、そこへ行ってもアプリの使い方なんて教えてくれないんですよ。「うちのテリトリーじゃないね。」って言われちゃうんですよ。それで、彼女らの使い方を見ると、要はもうスマホってスワイプだろうが、フリックなのか、タップなのかという、ちょっとした差で、私たち使っている人はわかると思うんですけど、あれによって反応が違うんですよ。そうすると、さっき指をどういうふうに使うかみたいところって、実は非常に大切で、それをちゃんと知ってもらったとしたら、多分だけ相当な問題が解決するというふうに思ってるんです。</p> <p>あともうひとつ、「家でネットが途切れたから見てくれない？」と言われて、大抵はWi-Fiなんですけど基本的にルーターでできることは、電源を切って、もう一回入れ直してつなげるという、基本的にはそれしかやりようがないんですよ。ということはそれを覚えておけば、大体解決するんです。</p> <p>そうになると、そんなに難しく考えるんじゃないかと、そういう情報を集めると割と高齢者層でも、楽しんで使ってもらえるんじゃないかという気がします。</p> <p>僕みたいな人が、集落に1人いてくれると、とても助かるなと思っています。</p>
会長	<p>発言ありがとうございます。</p> <p>先ほどの資料で、国のデジタル活用支援事業の、具体的な講座内容が書いてあります。</p> <p>既に使われているユーザーは、スワイプしたり、タッチしたりすれば何とかできると思っているんで、そのアプリが何の目的かさえ分かれば、使えるだろうと</p>

委員	<p>大体思っているんですね。その辺りの直観的なことと、原理が分かって初めて理解して覚えられること、丸暗記することが、講座の中でぐちゃぐちゃになって出てくると、講座が受講生の敷居を下げることに繋がないように感じます。</p> <p>今、委員がおっしゃったのは、こんな複雑で高尚なことではなくて、使用する人のレベルの話で安心できるようにして、ハードルが下がればコンテンツ的には随分楽しいコンテンツがあるということですね。</p> <p>はい、それともう一つだけ言っておくと、LINE で市政情報とかを伝えるのは、スタンダードだと思います。なぜかという、一つは、自分のところで作ったアプリって、自分のところでメンテナンスして、各端末に合わせていくのでコストがかかるんだけど、LINE というサービスを入れた後は、基本的にどの情報を載せるかは自分たちで考えるけど、その後のメンテナンスはLINE がしてくれるわけですよ。そういうのを上手に活用して、どこにコストをかけるかということですよ。情報を作るところにコストをかけるのか、メンテナンスという不慣れなところで大きな金を使ってやるのか、その辺はちょっとバランスを取ったほうがいいかなと思います。</p>
会長	<p>はい、他の方も意見ををお願いします。</p>
委員	<p>いまのお話を聞いて、先ほどの資料の中で、スマホ教室の講座をしている実施団体には社会福祉協議会も挙がっていたので、そしたらうちとしては何ができるかなと思ひまして。今まで通り、例えば講座をして、覚えてもらうパターンとか、これを支援してくれる人を養成するというのも考えたんですけど。それは多分身近じゃないなと思うんですね。</p> <p>前に市でも子育て応援隊というのがあったじゃないですか。地域の商店さんや得意な人とかが登録をしてくださって、地域で身近に相談できるような環境ができると一番良いかと、すごく良いアイデアをいただいたような気がしました。</p> <p>そういうやり方の方が多分、相談しに行きやすいし、その中で関係性もできそうですし。いやらしい話かもしれませんが、商店さんとかだと、お客さんへの広報というきっかけにも繋がるので、非常に良いかと、負担もないですね。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今日、事務局でまとめていただいた資料で、以前の議論を受けて、どういう情報発信の媒体があって、今後未来、随時だとか、本来だとかという、そういういろんなことも含めた、媒体等の整理があったと思います。今、とりあえず、できる限り、本来のインフラ環境にみんなが入ってもらうにはどうしたらいいのかというやりとりがまず出ていると思います。そこに魅力を感じれば、いけるのではないかと思いますので、このあたりも意見があればぜひ出してください。</p>

委員	<p>現状だけじゃなくて、少し新しい状況を作るといことも米原の未来にとって重要な気がしますので、こういうやり方でスマホや Wi-Fi、インターネットのユーザーが増えるんじゃないとか、こういうところをつまづいている人はこうしたら解決できるよとか、アイデアがあればぜひ。あと、活用シーンみたいなものも思いつくことがあればご紹介いただきたいと思います。どうでしょうか。</p> <p>今おっしゃっていた中で、私たちの親世代、私の親は、もう 80 歳近いですけど、スマホを持っていますが、すぐ忘れるんですよ。なので、聞ける人がいればいいのかなというのが一方、個人差はあるかな。</p> <p>スマホというだけで拒否感があって、うちの親は今スマホを持っていますが、最近、米原にスーパーもできましたけど、ほとんどタッチパネルで、あれさえも嫌だと言っています。「とりあえず、対面でお金が払えるところを探す」と言うので。</p> <p>そもそも拒否感がある人に対しては「スマホ良いですよ」というだけではちょっと難しい課題かなと思います。いきなり「スマホの使い方」としてやってしまうと、「もうできません。」というふうになるので、いかにメリットを示すか、「LINE ってそもそも何ですか？」という話もですが。</p> <p>私の親は「LINE なんかもしない。」って言ってるし、「そもそも SNS って何？」というレベルなので。でもそういう人に、10から話し始めるんじゃないくて1からね。でも、強制というわけにはいかないので、いきなり「こうして」というより、どういうメリットがあるかを市の事業もあるので、紹介とか、説明をゆっくりしてもらおうとか、広報とかで絵などを使って優しく紹介して。やはり距離感がある人は非常に多いかなと思うので、そういうことが必要だと思うんですよ。</p>
会長	<p>そうですね。次は、行政の手続きだとか、いろんなサービスや、或いはプライベートでの購入だとか、いろいろなことがみんなオンラインですよということになると、それについていけない人もいると思います。</p>
委員	<p>置いてきぼり感を感じる高齢の方が増えてくるというのは、やはり難しいということになるんですけど。若い世代や自治会もそうですが、「みんな LINE で話せばいいじゃん。」という話になるんですけど、上の方はそうはいかない感じですかね。どっちをとるかは難しい話だと思います。</p>
会長	<p>例えば、いま、委員がおっしゃったように、使い方やメリットがあるよということが理解されることが大切ですね。行政サイトの使い方だけ言われても、ピンとこないかもしれないけれど、私の周りの親族だとかを見ると、やはり電話代も安くとか、或いは写真とかもいろいろ載せて、親族間とかで交流があったりすると、ハードルはすっと下がっていると感じます。電話をかけてしゃべるのは少し</p>

委員	<p>抵抗があっても、「今、こんなものを食べました。」くらいで写真を送ったりするのでしたら簡単に交流できて、距離が離れていても、情報を共有しやすいというのが肝心です。</p> <p>だからその意味でも発信という言葉でなくてもいいんですが、やはり入口のところで、もう少し楽しい、或いは自分の新しいライフスタイルとか何か描いて見せないと、今、委員が言われたように、「そうしないと暮らせないのか？」みたいにハードルを高くされていくイメージで、置いてきぼりをくらったふうになってしまうと思います。ですから、そこはぜひ講座に入る前の段階で「こういうふうに面白い使い方やライフスタイルが享受できますよ。」みたいな話があったらいいのかもしれないね。</p> <p>他にいかがでしょうか。はいどうぞ、お願いします。</p> <p>私は今、公民館にしまして、3年前ぐらいにガラケーがなくなるという話があって、うちでもスマホの講座をしました。そこで、いくつかの会社に問い合わせ、「直接講座を開いてくれませんか」というお願いに応えてくれた会社があって。多分、高齢者が多いだろうということで、らくらくホンを20台ぐらい用意していただいて、みんなで同じ操作を一緒にやるような講座を数回やりましたが、やはりすぐ定員がいっぱいになってしまいました。講座は何回かやったんですけど、来る方が大体同じというか、定員になるまでの応募は争奪戦になるんですけども、大体同じ人が次も来たいということで、実感したのは、やはり1回だけでは覚えきれないんですよ。それで、3回、4回来ても、まだちょっとわからないということで、一番基本的な開け方や通話のかけ方とかをしていたんですけども。</p> <p>でも、結局同じ人が何回参加しても、貸し出し携帯でやったので、自分のとはちょっとやり方が違って。「電源の入れ方がわかんない。」「戻り方がわかんない。」とか、そういう実感もあって。講座はうちの方でも続けたいとは思ったんですが、2年後ぐらいですかね、携帯会社は、ショップで講座を独自でやりますということで。うちがきっかけだったみたいです。みんなにニーズがあるということで、今、多分、各地でやっておられるとは思いますが、有料で。うちは無料で大阪から来ていただいて、皆さん何とかこの社会の流れに乗っていただこうということでやったんですけども。</p> <p>それと、公民館では、「もしサボ滋賀」という滋賀県が出しているLINEのコロナ対策で、各部屋にQRコードを置いて、来たら必ず読み取ってくださいというようなことを、利用者さんにご案内しているんですが、ほぼほぼ皆さんどうしていいかわからなくて。教えるんですが、説明をしてもみなさんQRコードが読み取れなくて。だからこれは全然機能していないなど日々の業務の中で感じています。</p> <p>「コロナから守るためだから登録してね。」と言うんですが、「いや、分かん。」という方が多いのと、でも中には孫とつながるのに結構スマホを使っている方も</p>
----	---



<p>会長</p>	<p>いて、孫からラインが来て、写真を見せてもらったり、そういう交流をしている高齢者の方もいるので、一律に高齢者みんながスマホを使えないというわけではない。</p> <p>この格差というか、使えない人と使える人とで結構差があるというか。若い人はすぐに「わかった、わかった」と言うことができますけども、高齢者は、何度も何度も忘れてしまったりして、なかなか浸透していかないのかなというふうに感じています。</p> <p>市から示された資料の3ページ目のところですね、情報発信の現状紹介では、全庁各課がオンラインでも発信しています。</p> <p>皆さんの議論になったのは、土台の部分ですよ。「みんなの日常生活の中にそういう新しいオンライン化のライフスタイルというか、生活のツールみたいなのが受け入れられますか。」というのと、もう少し次の運用というか、上の段階での議論。「新しく米原のまちづくりやプロジェクト事業を起こす際の形としてはどういう組み合わせ方でやったら良いですか」という二つの議論が出されています。後者については、今は対面やペーパーベースの方法でやっていますが、土台の市民の皆さんがオンライン環境になじむかたちでの開拓の方法をどうしていくかが課題ですね。</p> <p>事業化に向けた取組の中でどういう媒体の組み合わせや活用があるかというところがポイントになりそうです。前回の委員会では、どの媒体がどの情報にぴったりで、誰にどういうふうに届くか、届かないかという言い方で話し合っていました。コロナ禍の体験の中で、オンラインなどの媒体を活用できるユーザーを増やすとか、ライフスタイルの中に入ってくる状況をつくることに対してやはり努力する必要があると感じました。新型コロナウイルスや防災に関する情報など、いろいろなことを考えたときには、高齢者の方も含めて、情報が届くといいなと私も感じています。今日はそういう議論を、まず前半のところでしたいただいて、情報共有のあり方という言い方にはなっていますが、もう少し突っ込んだ話も出てきたかなと思います。他はどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>議論を聞いていて、少し自治体レベルの課題認識と、市民目線での課題認識にずれがあったのかなと思うので、そこを埋め合わせるような形で市への提案というものを考えたほうが良いのかなという感想を持ちました。</p> <p>それと、委員の提案というのは、新しい要素を入れるという意味では、結構積極的に議論したほうが良いのかなと思いました。つまり、その制度の中での議論じゃなくて、制度を超えた議論がやはり必要なんですね。今まで枠の中で、結構議論をしていて、特に、第6期はそういう傾向がなかったかなと思うので、そういう視点で考えるのも一つかなと感じました。</p>

委員	<p>やはり行政から市民への情報伝達ということがメインで議論されるので、市民からの意見をどう取り入れるかというのが大事かと思います。</p>
会長	<p>情報発信と書いてありますが、市民にとっては情報リテラシーというのは、行政情報のところで生まれるわけじゃないので、おそらく新しい生活スタイルやメディアツールをどうやって自分の生活の中で描けるのかということについて、積極的に議論をしていく必要があるのかなと思いますね。</p> <p>自治基本条例推進委員会という形ですから、大分そこの点からはずれているのかもしれませんが、その辺りは最初考えていたものより、もう少し緩やかなもの考えた方がよい気がしています。</p> <p>では、時間のコントロールをしなければなりませんので、次に、テーマの2番目と3番目に移ります。これは前回も一括してというやり方でしたので、オフラインでの対面での緩やかな交流、関わり方というようなところと、職員と地域の関わり方ということについては、一括して進めたいと思います。これにつきましても事務局の方で資料を用意されていますので、まず事務局の方から資料について紹介いただいた後、議論したいと思います。お願いします。</p> <p>●【テーマ2】オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について （自治会機能、運営の在り方等）</p> <p>●【テーマ3】職員と地域との関わり方について</p> <p>&lt;事務局から資料に基づき説明&gt;</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、テーマ2・3について意見交換をしたいと思います。</p> <p>とりわけ、テーマ2の対面というのは、対象を随分広げた言い方になっていまずけれども、過去のここでの議論をご紹介いただいたように、自治会が担ってきた、或いはこれから担って欲しい機能というのを、どうやって支えていけばいいのかというようなところに焦点が当たってきていますので、今回もそういう形の話題の提案になっています。</p> <p>それ以外に、対面型の交流・関わり方ということで、それを広げるような議論があったらそれも遠慮なく出してください。</p> <p>また職員と地域との関わり方の現行制度について、一定の役割を一回りした段階でどうしようかという問題と、この前ご紹介いただきましたように、実情からすると、職員が米原出身者でなかったり、米原在住でなかったりする方が少ない状況で、自治体の職員であれば地域のことを知っているわけではないので、</p>

	<p>職員自身の地域への関わりをデザインすることも、大事なかなというふうに感じていました。テーマ3については、この制度を少し超えた範囲のところで、職員と地域の関わり方という広い視点で、職員が地域とどう関わっていったらいいのかということを中心にお話いただければと思います。</p> <p>これも先程からのコロナ禍の話ですが、私の地元では、自治会の集まりであったり、お祭りだったり、例えば清掃やいろんな管理業務について、集まって行くことを今年はしないことになっています。</p> <p>コロナ禍で直面しているような課題とか、もし新しい動きが生まれたようなこともあれば、紹介いただけますでしょうか。</p> <p>ぜひ、自治会の実情についてお話いただければと思います。</p>
委員	<p>ご参考になればなんですが、私はNPO法人で、子ども食堂と、学校に行きづらい子の居場所、虐待傾向にある子の居場所、地域の高齢者の居場所づくりを進めています。今年度の活動の中では、自治会との協力の部分でいうと、高齢者サロンが全部中止になってしまって、敬老の日にお弁当配りをされるだけになったんですが、その時に、何か交流ができればということで、子どもたちからのメッセージ、それも子ども食堂を使って書かせて、配ってもらうという連携をさせていただきました。</p> <p>あと、滋賀県内には子ども食堂がたくさんあるんですけども、その中で、継続できたところと、できなかったところの違いは、自治会で立ち上げていなかったところだったり、場所を自治会館とか、そういうところを借りてやっておられたところは、やはり子ども食堂の運営者側から「感染対策をきちんとするからやりたい。」と言っても、「全面的にここは閉鎖になるから入れないよ、どの活動も中止されてるから。」となる。そういうことで、やっぱりやりにくかったという声がよくありました。</p>
委員	

<p>会長</p>	<p>るというような印象があります。</p> <p>明らかに人口減少しているんですけど、その中に入った若い女性がそういう活躍をされているのが印象的で、そういう雰囲気づくりみたいなことも良いのかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。他にどうでしょうか。</p> <p>今、施設を使うことが難しい状況になっているということを紹介いただきましたけれども、いかがでしょうか。そのあたりでお気づきになったことがあったらぜひ紹介いただきたいです。</p>
<p>委員</p>	<p>地域担当職員について、ちょっと聞きたいんですが、年々減少しているのは、「自治体の問題が解決しました、ご苦労さまでした。」ということなのか？どういう具合で減っているんでしょうか？</p> <p>自治会が「助けて欲しい。」と行政にお願いして、職員が来てくれて、1人がそこを見て問題解決するって、形的にはできそうだと思うんですけど、事実上は無理だと思うんですよ。職員のキャラクターであつたりとか、地域にフィットするかとか、自治会長によって、たくさん問題を言ってくれる自治会もあれば、逆にその人のコミュニケーション能力によって、全然言わないこともある。だから、何も事がないように進んでいくってこともあるから、その辺の内容をもう少し聞きたい。</p>
<p>会長</p>	<p>では事務局から、答えられる範囲でお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当職員制度に関わる自治会の現状なんですけれども、最初は「何でもいいから手を挙げてください。それに、職員が伺ってお話を聞いて、調整させていただきます。」という形だったんですが、やはり課題もありました。</p> <p>しかも1年で役員さんが交代してしまうというのがあって、次の役員さんには引き継がれるようなんですが、役員さんによってはその思いにずれがあつたりして、その頻度が下がってしまっているという現状もございます。</p> <p>こちらの紹介の仕方も当初に比べると、だんだん、「こういう制度があるので、使ってくださいね。」という紙でお知らせするだけで、積極的に活用を促していないという現状があるので、そういうところで自治会の方も職員をなかなか活用したり認識できないということがあります。</p>
<p>会長</p>	<p>このやり方で、いろいろなことがもうすでに一回りし、解決し終わったというより、もう少し違うところで、少し活用の頻度が減っているようなイメージなんですわね。</p>

委員	<p>では、職員と住民に挟まれてしまうという問題なのですが、私も自治会の防災体制を確認する役に当たっているのですが、当時は3人体制で、課長、課長補佐、主幹と主任ぐらいでチームを組んで、自治会長さんとか役員さんと顔合わせして、「今回はこういうテーマで」という話を聞いて、そのあと防災の方で、こういうこと相談したいということがあれば、つなぎ役ですね。そうすると、次、会議か何か行ったりすると、防災じゃなくても、やはり地域の人から言うと、窓口になっているいろいろ電話もかかってくると思います。</p> <p>職員にとっては、全然、違う地域へ行くのは怖いんですけども、行っているうちにだんだん顔を知ってもらえるようになり、さっき言われていた1年で変わるんですけども、反対に、防災なんかは、役員を1年じゃなくて3年ぐらいにしてくれて、しんどいけど1人辞めたら次の人に交代していくということを考えてくださいということで、防災意識が高まったという経験がありました。</p> <p>職員の方も外へ出ることで、やはり自治会でしゃべっているいろいろ聞いたんですね、区のこと以外の地域の呼び出しとかも含めて、「また、これは次に聞いておきます。」と次につなげることができたので、経験してよかったなと思っています。地域の防災も含めて、担当職員制度も活用させていただきましたし、私の経験から言いますと、制度があって本当によかったと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>例えば、各自治会に1人は市役所の職員がいるじゃないですか。住民として。その人がそのポストに就くというのはあまりよくないんですか。</p>
事務局	<p>地域担当職員制度は、自治会から要望があったら、そこに住んでいる職員があたるように構成されていますが、全自治会には職員がいないので、そういう場合は近隣の職員が対応するというかたちです。</p>
委員	<p>地域出身の職員だからこそ、やりやすいことと、やりにくいことがあると思うんですが。</p>
事務局	<p>できる限り、周辺地域の職員が当たれるように調整している状況です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他に意見があればどうぞ。</p>
委員	<p>私の自治会では、今の問題等も踏まえて、自治会の執行役員は自治会のグループとは別にしているんです。別にしてその中に執行役員、副部長、部長を入れて12人います。その担当部というのがあって、まちづくりならまちづくり部がやるとしていて、大体2年の任期です。引き継ぎ、引き継ぎで執行役員だけの体制を</p>

<p>会長</p>	<p>とっていると、そこで切れてしまうので、この体制を継続しています。</p> <p>資料3にもありますが、防災の部分で変えたのが、今まで執行役員の方は、地域の中の〇〇会長とか、お偉いさんからというのがありましたので、それも改正して、有識者の人やもっと知識のある人とかで、さっきのオンラインじゃないけどもうちょっと詳しい人を広く集めていく。市役所の経験者の方もおられるので、そういう方を優先的に選出したりして。やはり他所のところからも情報があると、「自分の職場ではこうだよ」と教えてくれる。</p> <p>市の職員が3名来ているが、ちょっとというような部分もある。</p> <p>ただ、今は、要支援の方を迎えに行く人のことをね、例えば「〇〇さんは嫌い」という人だってあるよね。これが現実として、そこが支援に対する一番ネックになっています。</p> <p>そうすると、自治会側で「あそこが親戚やから」と言って、迎えに行くんですよ。</p> <p>それで、先ほどもあった災害時の独居高齢者の方への対応で言うと、これは絶対対面でないと確認が取れないから。災害のときだけは絶対に対面が必要。</p> <p>そういう人も決めるけど、やはり人間だから好き嫌いがあって、みんな引き受けてくれたらいいけど、やっぱり男性が良いとか、女性が良いとかそれがいま一番のネックです。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>当然対面ということで議論している以上は、やはりその個々の方のコミュニケーション能力とかいうことに留まらなくて、どういう形での交流かというのは、なかなか今話を聞いていると、簡単ではないですね。</p> <p>それは、自治会の執行役員さんだからとオールマイティに期待されても現実には難しいですし、先ほどから出ているように、任期とか、バトンタッチしていくとか、申し送っていくとか、そのあたりと実際にいろいろなものが動いている、組織の持って行き方というのがどうもうまくいっていない。</p> <p>先ほど委員が言われたように、うまくできた組織もおそらくあるんでしょうけれど、なかなかそこが対応できていない組織も存在しているので、こういう問題、課題があるんだろうなと私も想像します。全部理想を言ったら難しいところなので、まず、防災・減災については1年交代にならないような体制でやるようにしましょうとか、いろいろな人たちの意見が消えないような制度の工夫はこうしましょうとか。</p> <p>多分、まず最初に突破しなきゃいけない自治会交流のための評価というのは、おそらく今話を聞いていると、いくつかはどこの自治会にも当てはまる疑問としてあるんだろうなと感じました。自治会の機能が重要で、今後も頑張ってもらわないといけないという言い方だけだと提言になりません。1年更新とは別な形での任期制度とか、役員の制度を作っていたりとか、或いは、若い世代や</p>
-----------	---

<p>委員</p>	<p>新しい世代、いろいろな独居老人の方においても、ニーズが多様化する中で、どう工夫がされているのか、こうしたやり方で機能してますよというような紹介も自治会に対して共有し、現状を変えていきましょうと言わないと、提言としては一般論になりすぎるので、そこは工夫をして提案をまとめたらいなと思います。</p> <p>職員の制度については説明いただきましたので、重ねませんが、ここも工夫すればまた活用できるのではないかというような気がしましたが、いかがでしょうか。</p> <p>去年から私も自治会をやって、実際、入ってみると本当に大変で。私の地域は、昔ながら住んでいる人は何となく自治会の機能とかも引き継いでやっているから、「こういうものかな」とやっています。新しい人が来られると、「ほとんど、この辺のことを知らないから、とりあえず大変な役を当てないで。」というような感じで来る人がほとんどです。</p> <p>特に、私の地域では役によって1年だったり、2年だったりすることもあるので、「2年目の人が大役をやってください。」みたいになると、「そもそもどうなの？」といった話もある。そもそもの問題として、最初説明いただいた自治会の活動というものが理解されてない。地域には遠いところから来ている人もいっぱいいるので、「そもそも自治会って、ごみ関係のことしかやってないんじゃないか。」とか、それだけに「自治会費は払うけど、ほかのことに対してなぜお金を払わないといけないの？」といった意識がすごく高い。しかも、当番なんて、「なんで土日に行かないといけないの？」とか。</p> <p>そこで、私がすごく感じたのは、やはり自治会のプレゼン能力がすごく求められているということです。最初にしっかりと説明できてなくて、くじだからと自治会長を依頼されて、「はい。わかりました。会長受けましょう。」となると、確かにいきなり来た人は、くじ引きで自治会長に当たってしまったらどうしようとなってしまいます。</p> <p>それぞれの自治会でいろいろ状況も違うから、そういった意味で最初のプレゼンでいかにわかってもらうかというところで、市で自治会の役目や役割をしっかりと、まとめてもらうと、最初に自治会で初顔合わせした時にそれを紹介して説明できるのですごく意味があると思うんですよ。自治会だったら、うまくしゃべれる会長もいれば、しゃべれない会長もいると思うので、そんなときは、自治会の役目や役割を紹介するツールみたいなものがあると説明できるかなと思います。</p> <p>今、自治会も様々っていう話がありましたが、職員の派遣制度がありますが、自治会に「要望を出してください。」というのは来ますが、実際どれぐらい職員が自治会体制を理解しているのかなと思います。派遣制度にすると、やはり自治会からの希望を待っているという状態だし。</p> <p>自治会からの要望はヒアリングとかもされているんですか？要望ばかりという</p>
-----------	---

<p>会長</p>	<p>ような感じがして、さきほどのように「独居老人のことを調べてください。」というのも市と自治会の距離が遠い気がして。「ここの自治会はこういう状況だ」とかいうことをどれくらい把握されているのかが気になります。そういうことを今後理解できるかというところが重要で、やはり現状を知らないと難しい。</p> <p>さっきも仰ってましたけど、他の自治会がどうされているかがすごく興味がある。だから、そういう意味で、他の自治会の参考事例がもっとわかると、多分、次に入ってくる人ももっと把握できると思います。世代交代というところで今は、すごく大きな課題があって、自分自身が自治会に入っていて思います。</p> <p>さっきの LINE の話にしても、年配の方も「LINE なんて」という感じだし、でもそうしないと若い世代は、「電話しないといけないの？面倒くさい。」とかいう話になってしまう。やはり、情報を共有することで、市、自治会、世代などの垣根をなるべく低くしてもらえると、もっといいのかなと実感しています。</p> <p>自治会への「ヒアリングはできているのか？」という質問についてはどうでしょうか。現状では、そういうアプローチの仕方を必ずしもしているわけではないんじゃないでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>以前はですね、ヒアリングではないですが、年度当初に自治会の状況として、人口なども含めて、年間どんな行事をされていますか？というような基本的なことを知らせていただくようにはしていましたが、ここ数年それをやめています。自治会カルテというものを作っていましたが、今はそれを更新できていません。今おっしゃったように、市が自治会の情報、状況を積極的に把握できていない状況です。</p>
<p>会長</p>	<p>今いろいろ重要な問題提起がされたと私は感じます。市にお願いをしたいことの中で先ほど、「つくる未来展」をご紹介いただいて、市民のまちづくり活動団体のデータは 17 年で更新は止まっていますが、自治会カルテというもので自治会の現況を行政が把握するというのも今は積極的にはされていないということだと、おそらく市役所の職員も大変だし忙しいとは思いますが、市民協働、自治基本条例との関係でみると、やっぱりこのベースの部分の情報に対して、市役所の皆さんが必要だという思いがあれば、この情報というのは更新されてくると思うんですね。やはりこれがなくても、公民協働とか、地域の皆さんがいろいろやってくれるんじゃないかと、職員の皆さんがもし思っているんだとすると、少し自治体職員の皆さんの関わり方が、地域から見ると問題で、或いは「必要な情報を掴んでやっているのか。」とか、そのあたりで市役所との距離があって、議論の場も持てなくなると思います。</p> <p>自治会の皆さんと話をすること自身も、なかなか難しい状況が出てくると思いますし、市役所の人たちを信用してお願いしますということもいろんなところを</p>



委員	<p>見ていると必ずしもなくなってきている中で、私はまだやはり自治会の機能を大事にしようという議論は一致して持っていますし、その重要性を感じています。市役所の人が地域の皆さんと関わるのが大事だということは思っていられるわけですから。</p> <p>これを実体化や実行していかないと、そのうち「ダウンサイジングしていたら切り捨てる恐怖になりますよ。」とか、「そんなこと自治会にお願いしたって。」といったことが市役所や自治会に出てきた時には、溝はもう埋められないと思うので、今まだ橋がかけられるうちにその距離をどうするか。もちろん、「データベースを更新しなさい」と今要求しているわけではないんですが、そういうことが一つのきっかけになりうるので、やはりそこを追求してもらわないとだめなのかなと痛感しました。どうでしょうか。他にご意見があれば、どうぞ。</p> <p>そうですね。これは市の状況によっても違うと思いますが。合併をして今、庁舎が別々のところであって、市民の方が市役所に行って、そういう関係をつくる場を持ちにくいというのも多分、背景としてあるのかな。それで逆に職員が自治会の方に行く機会も減って。これは双方向の問題が何かあってですね。だから、両方をうまく解決するのはちょっと難しいかもしれませんが、何とかして解決への方法を探っていくということになるのかなと。</p>
会長	<p>広域で合併していく中で、必ずしも基礎自治体という言い方だと市役所や役場が遠いという、そんなに近い存在ではなくなってきているということ。今日の一番のテーマにあるように、オンラインということになっていくと、場合によってはバーチャルになっても大丈夫ということになっていくと思うんですが。</p> <p>今日の議論のところでいくと、やはり古い仕組みも、対面的な仕組みもある程度維持しながら、次の次元に実行していかないと。一気に変わるということになると、そういう関係性が崩壊して、後には何も残らないというふうになってしまって、これはもう一番恐れている事態だと思うんです。</p> <p>ですから、ぜひそこは今回の意見として、どういうふうに広域合併していったら、必ずしも市役所とおつき合いが近くないときに、どういう市役所、おつき合いを市民の皆さんがやっていったらいいのかということについてもう一度、立ち止まっていたくような提案を委員会としてまとめる方向で、議論を進めていけたらと思います。</p> <p>他に提案や気がついたことなど、次の提言にまとめたいという意見がありましたら、出していただければと思います。</p> <p>先ほどの意見にもあったように、本当にいろんな努力をしていることを、全然共有してきていなかったりとか、皆さんにアピールして理解をしていただかないと伝わらず、なかなか皆さん関わっていただけない。課題解決に繋がっていかないこの点は基本的な情報の出し方だとか、自治会あるいは市民との協働とは何だ</p>

	<p>ろうかというところも、もう少しわかりやすいような資料で、議論をできるというと思います。先ほどのオンラインの課題と同じところがあると思うんですね。やはりオンラインを生活に入れると、こういうことができますよみたいな形も、パブリックな話ばかりじゃないよということですから、自治会の紹介も、こういう機能がありますよとか、非常に共益的な公共事業がざっと並んでいますが、やはり、子育てだったり、いろんな子どもや高齢者であったり、すぐに実利なことだって楽しいことだってあるでしょと、もう少し良くなるよということ列挙されると思うんですよ。今日の議論でいくとソフトなアプローチ、訴え方をしていけるような内容を委員会として提言しないと、ハードルが高いままだと感じます。</p> <p>また市役所の職員の関わり方のところは、やりとりがありましたけども、やはり市役所の皆さんが、どう地域の中にコミットされるかという形でもう一度、現状について、確認をしていただいて、やはり自治会、地域の皆さんのことも知りたいというような、そういうニュアンスのアイデアが出てこないといけないなと正直感じたところです。そこについても配慮いただいたテーマ3の整理が必要かなと思います。</p> <p>次回は今日の意見を踏まえまして、市への提言の方向性を一旦事務局の方からまとめて、ご提案いただくという形で、議論をさらに深めていきたいという予定をしております。</p> <p>ということで今日の議事については終了させていただきたいと思います。</p>
--	---

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p>■公開 傍聴者： 0人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>一部公開または非公開とした理由</p> <p>( )</p>
<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等： )</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等： )</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 ■無</p> <p>録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 ■無</p>
<p>担 当 課</p>	<p>政策推進課</p>